

小学4年2組 音楽科学習指導案

指導者 上代美樹

1 題材名 旋律や曲想を生かして歌おう ～『ゆかいに歩けば』の聴き合い～

2 題材のねらい

旋律や曲想をもとにして、曲の特徴に合った歌い方に対する自分の思いや意図をもち、それらを伝えたり、互いの表現を聴き合ったりしながら、表現を工夫することができる。

3 授業の構想

(1) 以下に示すのは、校内音楽会に向けての合同音楽で『スキンプルシャックス』の歌唱に取り組んだときのふりかえりである。

○「笑顔を見せて」という歌詞があるから、笑顔で歌うところは特に気をつけて歌いたいと思いました。それと、おおかみさんの声（頭声）やmpで歌うところができなかったので、強弱をつけて歌えるようにがんばりたいです。（児童A）

子どもたちは、歌唱に取り組む際、歌詞の意味を考えて歌ったり、曲全体のイメージから、頭声できれいに歌いたいという思いをもったり、強弱をつけてより豊かな表現になるよう工夫しようとしていたりしている。

このような子どもの姿から、本題材では、さらに曲想や音楽を形づくっている要素の働きを感じ取り、曲の特徴に合った歌い方を工夫し、思いや意図をもって進んで歌唱活動に取り組む姿を目指していきたいと考える。

今回取り組む『ゆかいに歩けば』（保富康午 日本語詞/メラー 作曲）は、スタッカートの付いた弾んだ旋律の前半部分と2分音符で伸ばしながらだんだん上行していく後半部分からなる二部形式（A+B）の曲である。前半と後半で旋律の特徴の変化がとても分かりやすく、2つの対照的な旋律の特徴を生かした歌い方を工夫していくことができると考える。また、曲の後半に出てくる曲の山に向かう部分では、伸ばす音とスタッカートの付いた音の歌い方の違いや音の上がり下がりや強弱の関係に気を付けて歌う工夫もでき、旋律や曲想を生かしながら歌う活動に適した楽曲であると考えられる。スタッカートの部分では、腹筋を使って声を短く弾んだ感じを出すことや音が上行するときにはクレッシェンドをしながら歌うなど、特徴に合った表現に結び付けやすいという良さがある。

(2) 本題材では、学習指導要領のA表現（1）イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」（2）ウ「音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」にかかわる学習を進めていく。曲に対する自分の思いや意図をもち、その思いを伝え合い表現を聴き合うことで高め合っていく姿を大切にしていきたいと考える。

第1次では、『聖者の行進』をリコーダーで演奏し、スタッカートを生かした表現について学習する。スタッカートの有無やスタッカートの音の切り方によって、曲想がどのように変わるのかを感じ取らせることで、『ゆかいに歩けば』での曲の特徴を見付ける活動につ

なげていく。『ゆかいに歩けば』の曲の特徴を見付ける際には、一人一人に楽譜付のワークシートを渡し、自分の思いや意図を書いていく活動を行う。今回は、主旋律にしぼり活動をしていく。ここでは、「スタッカートが付いている。」「後半は音が長くなっている。」という旋律の特徴だけではなく、「だからこう歌いたい」という思いや意図も書くように声がけをする。個で考えた後は、全体で見付けたことを共有し、曲に対する共通のイメージをもつようにする。その後、音取りを行い全体で音取りをした後は一人でも歌えるように、数人のグループに分かれて練習する。

第2次では、見付けた特徴をもとにして、歌い方のポイントを考えていく活動を行う。例えば、「スタッカートの音は弾んだ感じで歌いたいから、お腹を使ってしっかり声を出す。」のように、特徴を生かした表現にするための演奏方法まで考えるようにする。「スタッカート」「強弱」「歌詞や曲想に合った声」の3つは、子どもたちから意見が出るように、導入からの積み重ねを大切にしていく。

本時では、グループに分かれて曲の後半部分の表現を工夫していく活動を設定する。自分たちの演奏が思いや意図の伝わる歌い方になっているのかをお互いにアドバイスしながら、試行錯誤を繰り返していく姿を期待する。活動が子どもたちの主体的な活動になっていくために、曲の後半部分の表現の工夫に焦点を絞る。

4 展開計画（全5時間 本時4/5）

| 次 | 時 | 主な学習と具体的な学習・内容 | ◇願う子どもの姿 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | ○『聖者の行進』を演奏し、スタッカートが付いている部分と付いていない部分の違いを感じ取る。 | ◇スタッカートの有無による演奏の違いに気づき演奏に生かそうとする姿 |
| | 2 | ○『ゆかいに歩けば』の曲の特徴を見付ける。 ・旋律の特徴を個人で見付けたあと、学級全体で話し合う。 ・音取りをする。(全体→グループ) | ◇楽譜や範唱から見付けた旋律の特徴を進んで伝える姿 ◇旋律の特徴を生かした歌い方になっているかを考えながら歌う姿 |
| 2 | 3 | ○スタッカートの付いた部分と付いていない部分の違いを考え、表現の工夫をする。(曲の前半) ・歌い方のポイントを楽譜に書き込み、表現の工夫をする。 | ◇自分の思いや意図を積極的に伝えたり、曲想に合った表現にしようとしたりする姿 |
| | ④ | ○スタッカートの付いた音と付いていない音の違いや強弱を考え、表現の工夫をする。(曲の後半) ・グループに分かれて演奏の工夫をする。 | ◇お互いの歌声をよく聴き合い、アドバイスをしながら、表現を工夫する姿 |
| | 5 | ○学級全体で歌い、成果を確かめる。 | ◇曲に対する自分の思いが伝わるように、見付けたポイントを生かし楽しんで歌おうとする姿 |

5 本時の学習

(1) ねらい

旋律の特徴に合ったスタッカートや強弱などの表現を考えて工夫しようとしている。

(2) 展開

| 学習場面と子どもの取組 | 教師の支援と願い・評価 |
|---|---|
| 1. 常時活動をする。(リズム遊び, 歌など) 2. 前時をふりかえり, 本時のめあてを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽の基礎的な能力を養うために, 音楽を形づくっている要素を含む活動を取り入れる。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">曲の後半の歌い方をグループで考えて工夫しよう</div> | |
| <ul style="list-style-type: none"> 前半はスタッカートがたくさん付いているから, お腹を使って弾んだ感じで歌うとよかった。 スタッカートが付いている音と付いていない音の歌い方を変えると旋律の特徴を生かしていると思う。 弾んだ感じで歩きながら歌うと楽しかった。 3. グループに分かれて練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> スタッカートの弾んだ感じをもっとあるといい。 もっと明るい声で歌おうよ。 だんだん音が高くなっているから, クレッシェンドしていこう。 最後は, 元気よく終わりたいからもっと声を出そう。 4. 工夫したところを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 強弱がよく分かるようになっていて, だんだん曲が盛り上がる様子が伝わりました。 スタッカートを生かして, とても楽しそうに歌っていて良かったです。 私たちのグループとは違う工夫がしてあって面白かったです。 5. 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで考えて歌うと, とても楽しいです。 思うように歌うのは難しいけど, 友だちにアドバイスをしてもらって, どんどん良くなりました。 | <ul style="list-style-type: none"> 旋律の特徴や歌い方のポイントを記入した拡大楽譜を掲示し, 前時までの学習を想起できるようにする。 歌詞や旋律の特徴を伝えるだけでなく, どのように歌えばよいのかまで考えて発表できるように声がけをする。 自分たちで歌い方の変化を感じ取ることができるよう, 一人一人に前時までのワークシートを渡し, 気付いたことを記入するように伝える。 歌い方に対する思いや意図を伝え合うことができるように, 歌い手と聴き手に分かれて練習するように指示する。 「工夫の内容」「自分たちのグループとの違い」など, 発表を聴く視点をもたせることで, 工夫に気づくことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価の観点 (音楽表現の創意工夫)</p> <p style="text-align: center;">自分の思いと旋律の特徴 (スタッカート, 音高, 強弱など) を生かし, 表現を工夫しようとしている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 演奏・観察・ワークシート】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 思いをもって歌うことの楽しさが分かり, これからの活動につなげようという意欲がもてるようなふりかえりにする。 |